

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	農作業で外国人が地元の農家さんをサポート
資金分配団体名:	認定特定非営利活動法人日本都市計画家協会
実行団体名:	NPO法人 Peace & Nature
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	兵庫県
事業対象者:	日本で生活する外国人

Version 3.2

日付: 2022年3月8日

I. 事業概要

事業実施概要	コロナ禍でサポートが必要な留学生や外国人の活躍する場を作る。神戸市北区大沢町の課題である竹林を整備し、耕作放棄地となった畑や田んぼを再生して、農薬を使わない農業を推進する。町外から外国人の学生や社会人を招集し、農家さんと共に農作業を実施することで、参加者は農家さんと交流する機会を得ることができ、農家さんは手伝いの費用を支払う必要はなく、農作業は大学の課外活動や企業のSDGs研修として実施する。参加者は活動した報酬として現地までの交通費や作業費用を受け取ることができる。畑で収穫できた野菜、米、果物は参加者が一部持ち帰ることができる。また活動費用を賄うため道の駅の直売所で販売する。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	神戸の大学や専門学校に留学中の外国人を中心に多数の若者を神戸市の農村エリアに招き、地元の農家さんと共に地域の環境改善のために活動することができた。地域の人にとっては長年の課題であった放置竹林対策に着手でき、地域の景観改善に向けて地域の方も活動日にはユンボなどの重機を使ってサポートしていただいた。畑で収穫した枝豆やお米を参加者へ配布したり、Comunity house and infomation centre（神戸外国人団体）のバザーに出店して販売することができた。また、大豆をつかった納豆と味噌作りのワークショップを開催することで、自分たちが作った作物をどのように商品化し販売するかなど、講師の先生より学ぶことで、次の活動に繋げる道を作ることができた。また、伐採整理した樹木を有効活用するため、道の駅へ薪として出品し販売することができた。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
外国人・外国にルーツを持つ人	居場所の不足	地元の農家さんと共に作業することで、人手不足の農作業に必要とされることで自分の存在を認めてもらうことができた	活動開催回数 活動参加者人数	活動開催回数：32回 活動参加者人数：延べ96名	活動開催回数：50回 活動参加者人数：延べ88名	大体想定通りの活動回数を実施することができ、外国人への報酬も想定通り配分することができた
外国人・外国にルーツを持つ人	学習機会の不足/格差	活動日には活動の目的をスタッフと参加者で話しあう時間がありSDGsについて学ぶ機会を持つことができた	同上	同上	同上	同上
外国人・外国にルーツを持つ人	就業困難	農業体験の研修として枝豆、大豆の栽培を経験することができた。また収穫したものをバザーで販売した	同上	同上	同上	同上

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	今年度の活動で外国人と地域の方が国籍問わずわかりあえることを経験することができた。農村の課題解決には猫の手も借りたくらい人が不足しているため、外国人が日本の文化にも触れることができる体験として農村にきて活動する機会を増やしていく。農家の役にたつことで、外国人が日本で活躍できるポジションをつくることできた。また次のステップとして、自分たちが作った農作物を販売ルートに載せることで、自立できる事業展開を広げてゆきたい。
考察等	今回の事業を通じて、在日外国人が日本の社会に溶け込み、彼らに夫々の役割を見つけてもらい、お客様でも可哀そうな存在でもなく、彼らに十分活躍してもらうことが、今後の日本のグローバル化社会にとって、大きな可能性に繋がることを実感した。私たちの組織は外国人が代表であり、協働している仲間にも外国籍が多い。そのため日本人には理解できない課題にも取り組みやすい。日本は超高齢化少子化を迎える中、外国人との協働や多様性を受け入れる社会の仕組みが急務であり、この事業を通じ、自分たちの持つユニークさを生かしながら、地球環境や安全な食づくりのモットーを元に、日本のグローバル社会にて、外国人とのパイプ役に力を注いでゆこうと、改めて強く感じることをとても感謝している。

V. 活動

活動	進捗	概要
・耕作放棄地を復活させるため石を拾い、草刈りし耕運機を使って畑を耕す	計画通り	農家さんと予定していた場所は作業することができた。荒れた状況が想定以上で人力だけでは困難で、農家のマンパワーと重機を必要とした
・農家さんとの交流のため、農機具の利用方法講習会を開催する	計画通り	トラクターの講習を1回実施した。参加した外国人にとっては貴重な体験をすることができた。
・無農薬で野菜を栽培し収穫し道の駅の直売所で野菜を販売する	ほぼ計画通り	栽培した枝豆とお米を収穫しバザーで販売することができた。また食品メーカーの協力を得て、収穫した大豆で納豆、味噌づくりワークショップをすることができた。
・竹林整備のための竹を切り、竹炭をつくり土壌改良材として活用する	計画通り	竹炭を畑の土壌改良剤として活用した。伐採した樹木は、大きさを整え束にして薪として道の駅で販売した。
・外国人が対象である事業であることから、全ての活動をバイリンガルで行う。	計画通り	ワークショップの募集チラシは日本語と英語で作成し、日本人と外国人が共に参加できる場をつくった。コントラクトや作業の指示なども英語と日本語で対応した。
・その活動内容について、参加者の国の人々に、自国の言葉でSNSを使って発信してもらうことで、この事業の周知を図る。	ほぼ計画通り	参加した学生が個人のSNSで友人や知りあいに情報発信してPR動画も作成し公開してくれた。
・またウェブサイトにて活動の内容及び報告を随時アップデートする。（バイリンガル）	ほぼ計画通り	Webサイトに活動の様子は随時アップデートして情報発信していった
DIYで日除けの設置、用水路の補修、室内の漆喰塗り	ほぼ計画通り	残作業あるが、ほぼ想定通りのところまで作業を進めることができた。引き続き対応中。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	樹木の根が深く張っていて人力で対応が困難で、農家さんに重機をだしてもらいサポートしてもらった。 授業がリモートになったり、なかなか友人と遊ぶことができなかった学生たちにも休憩時間に参加者同士の交流が生まれ、休憩時間にはおやつをとりながら、それぞれの国の話や調理など、また少人数での野球ごっこやサッカーごっこなど簡単なスポーツをたのしむこともできた。誰ひとり取り残されないよう、気配りした。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	外国人同士の交流が生まれ助け合い、グローバル化で多様性を理解しみんなが活躍する場をつくる必要性があることを強く感じた。今回参加して共に活動した人たちが橋渡しになって輪を広げていくことで、悩みを持つ外国人が解決のきっかけを掴むことを期待している。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
外国人団体、インターナショナルスクール、大学、企業	メンバーである外国人団体、インターナショナルスクール、大学、企業にも声をかけ、実践型SDGs活動をする機会を創出し、インターナショナルな交流をすることで他文化理解も深めることができた。アクションを通じ、SDGsを実体験してもらうことで、参加者の地球環境に対して、改めて自分たちのできることを考えていただく機会をつくることができた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	2,200,000	2,198,315	99.9%
	管理的経費	400,000	400,000	100.0%
合計		2,600,000	2,598,315	99.9%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	ベikom取材 https://www.youtube.com/watch?v=ZewoZ37KgXI&feature=youtu.be 神戸学生スクラム取材 https://youtu.be/44gweTA4fa8
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	SDGs Collaboration promotional Video (Fellow field & Bamboo Reuse) https://drive.google.com/file/d/1c7PQbbjoJ4N07VHczUd7zqN4K6aAZPXX/view?usp=sharing Environment & local community https://drive.google.com/file/d/1kKjc0VVGJKd64aM4sxPrZfTrud2J26_F/view?usp=sharing
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	セミナーのチラシ https://peace-and-nature.com/2022/01/06/janpia-event202201/ スタッフ募集のチラシ (日本語) https://peace-and-nature.com/2021/09/06/%E6%9C%89%E6%A9%9F%E8%BE%B2%E6%A5%AD%E3%81%A8diy%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%83%E3%83%95%E5%8B%9F%E9%9B%86/ スタッフ募集のチラシ (英語) https://peace-and-nature.com/en/2021/09/06/%E6%9C%89%E6%A9%9F%E8%BE%B2%E6%A5%AD%E3%81%A8diy%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%83%E3%83%95%E5%8B%9F%E9%9B%86/ DIYで作った屋根、作業場、玄関 (漆喰) などに、シンボルマークを貼っている
4.報告書等	月次報告書

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	